

山は、高くなるほど品がなけりやいかん 民話「だいだらぼっち」

むかしむかし、山を作るのが得意な「だいだらぼっち」という大男が山に住んでいました。あるとき、自分が作った山たちが、どちらが高いかを競い、争っていることを知り、だいだらぼっちは、「山というものは、高くなればなるほど、品がなけりやいかん。」といって悲しみました。それから、だいだらぼっちは、花や動物たちが集まる低くおだやかな山をあちこちに作ります。低い山でくつろぎながら、「こういう山が、おらがつくりたかった山だ……」とつぶやきます。

のんちゃん
[今野那緒子]

おすすめ 絵本

今号の病院特集のページでは、長野県・諏訪総支部、飯田支部の活動をご紹介します。長野県は大河ドラマ「真田丸」の舞台としても注目をされていますね。

同じ長野県・長野支部（事務局…八十二文化財団）からは、事務局長、高田尚史さんのお父様であり、児童文学作家の高田充也さん（みつなり）が出版された民話絵本「だいだらぼっち」（出版

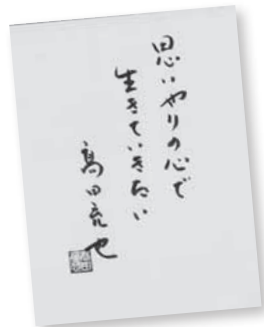
社…ほおずき書籍）が届きました。

「だいだらぼっち」は、日本各地に残る巨人伝説で、「でいだらぼっち」「だいだらぼう」と呼ぶ地域もあるようです。民俗学にも造詣が深い高田事務局長によると、山々に囲まれた長野県は民話の宝庫とのこと。

このたび、お父様が長野県にも古くから伝わる「だいだらぼっち」の民話を絵本にして出版したい、という願いを、高田事務局長が協力し、実現されました。

山を、人間の世界におきかえて考えてみるとうでしょう。人間の世界は、高さを自慢したり、競い合うことで発展してきたのかもしれませんが、高く険しい山にいつまでも住み続けることはできません。低くても花や動物が集まる穏やかな山……。競争や戦争がなく、人々が心おだやかに暮らす山。だいだらぼっちが作りたかった、そんな平穏な山に私も暮らしたいと思います。作者の高田さんがくださったメッセージのように、「思いやりの心で生きて」いけば、いつかそのような山に住めるのでしょうか。

作者の高田充也さんが寄せてくださったメッセージ



■おとこの名所

取材もレイアウトもメンバーの手づくり

そんな皆さんへのエールとして、新企画「人生と食のレシピ」をお届けします。ご協力いただくのは、世田谷区で「おとこの台所」を主催されているメンバーの方々。平均年齢70歳。男だけで、奥様族は作らない小粋なメニューにチャレンジしながら、第二の人生を生き生きと送っている皆さんです。定年族の皆様への生き方のヒントにもなるでしょう。どうぞお楽しみに！



定年族
必見!

新企画
「人生と
食のレシピ」が
始まりました。

長寿大国日本では、第二の人生の期間はかなり長くなっています。

しかし、そのランディングを上手にできない人も多いようです。特に男性。長年、仕事を通じて社会と関わってきただけに、一人になると何を